



あくなき創造で持続可能な社会を

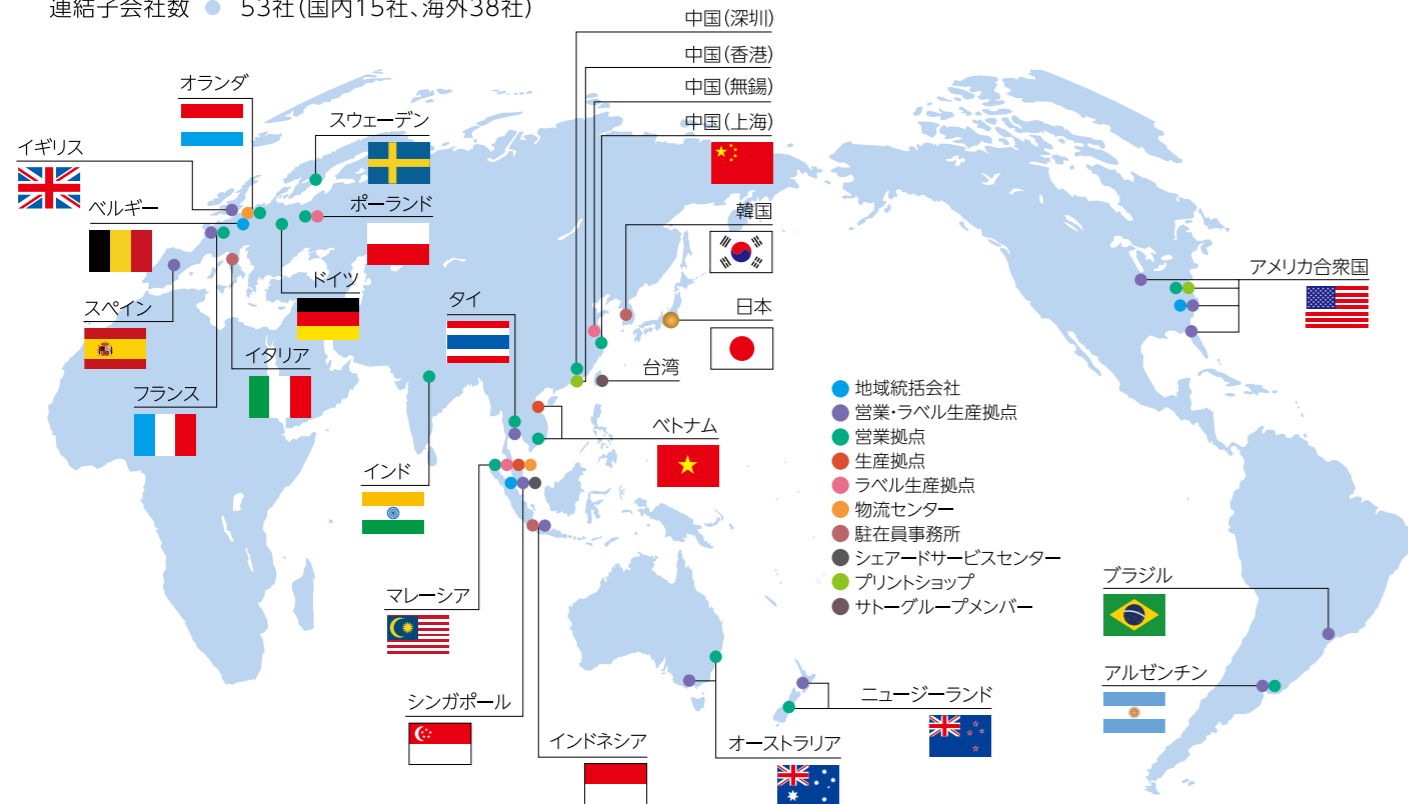
# 2013 サトーの環

社会的存在への宣誓書



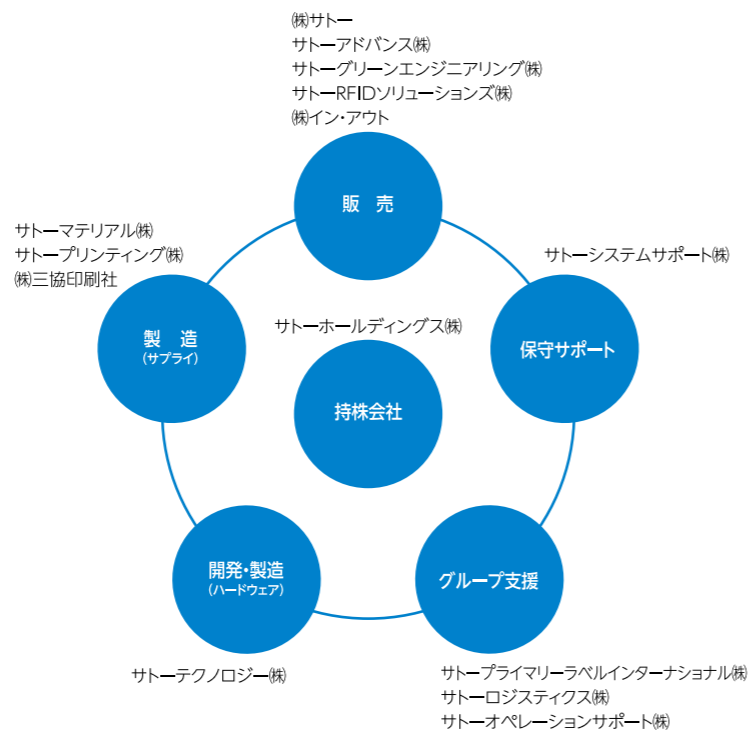
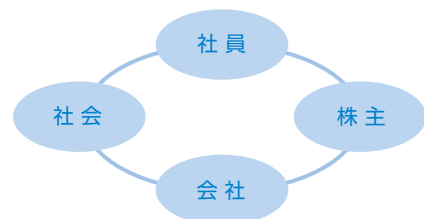
■ 会社概要 2013年3月31日現在

- 社名 ● サトーホールディングス株式会社 (SATO HOLDINGS CORPORATION)
- 本社所在地 ● 東京都目黒区下目黒1丁目7番1号 ナレッジプラザ
- 創業 ● 1940年
- 設立 ● 1951年5月16日
- 資本金 ● 6,331百万円
- 連結従業員数 ● 4,162人
- 連結売上高 ● 87,256百万円
- 連結子会社数 ● 53社(国内15社、海外38社)

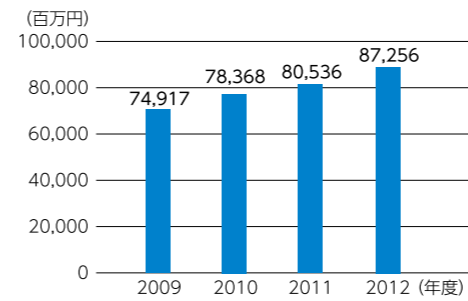


■ サトーグループの社会的存在への宣誓

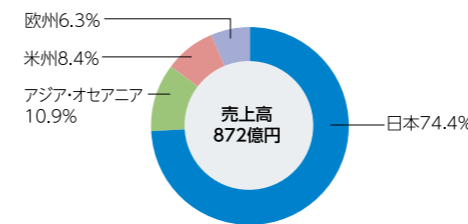
サトーグループのCSRは、「本業による社会貢献」の実践を旨としています。企業は社会、自然環境と無縁では存在できません。わたしたちはその環境とどうかかわるかを明確に規定し、企業の持続的成長への根幹となる行動をCSR活動と位置づけています。わたしたちが理想として追求していることは、サトーグループの事業そのものが社会や環境に溶け込み、価値を創造し、その成果物を株主、社員、社会、会社の四者で分かち合うことです(四者還元)。株主、社員、社会、会社を「環」とし、事業活動を通して四者が成果を享受すること、これが「サトーの環」です。



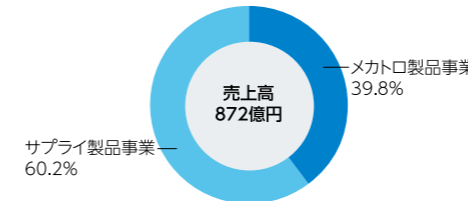
■ 売上高(連結)



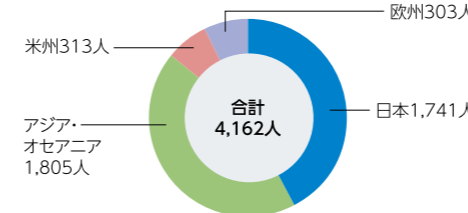
■ 地域別売上高構成比(連結)



■ セグメント別売上高構成比(連結)



■ 地域別従業員(連結)



編集方針

「企業は公器である」とは創業者・佐藤陽(よう)の言葉です。本書ではサトーグループという企業が社会に対して果たすべき責任についてさまざまな方向から報告しています。自動認識ソリューションによる「正確・省力・省資源」の実現を標榜するわたしたちは、2012年、新たに「安心」「環境保全」をビジョンに加え、豊かで持続可能な社会への貢献をめざすことを定めました。特集記事では、環境に配慮した製品の導入事例や、環境経営をテーマとした弊社社長のメッセージを社外識者との対談を通して掲載します。また2012年は、値付け機「ハンドラベラー」を佐藤陽が発明してから50周年の節目の年でもあります。現場作業の省力化に貢献するこの製品の進化の歩みや、ハンドラベラーの販社であるサトーアドバンス株式会社を特集ページにて紹介しております。これまでの歴史の上に新しい未来を築いていくサトーグループの社会的存在の宣誓書として本書をお届けいたします。

参考にしたガイドライン

GRI「サステナビリティ レポートینگ ガイドライン2006」



このロゴはサステナビリティ日本フォーラム会員であることを証明するもので、報告書の内容に検証を与えるものではありません。

Contents

- 01 会社概要 サトーグループの社会的存在への宣誓
- 03 あくなき創造で持続可能な社会を
- 05 サトーグループのコアビジネス
- 07 特集01 対談「サトーグループの環境経営の本質はどこにあるか」
- 09 特集02 環境の未来に応えるサトーグループの技術
- 11 特集03 高齢化社会への挑戦
- 13 特集04 「ハンドラベラー」進化の50年
- 14 COLUMN 経営に社員全員が参加する「三行提報」
- 15 社会の信頼に応えるために
- 17 環境負荷低減のために
- 19 お客さまへ安心と満足を提供するために
- 21 社会との絆を深めるために
- 23 サトービジネスの源泉
- 25 誰もがいきいきと働くために
- 26 トップメッセージ

対象範囲

対象期間…2012年4月1日～2013年3月31日 (一部2013年度進行中の事項を含む)  
対象組織…サトーホールディングス株式会社および国内・海外グループ会社

発行時期

今回…2013年6月(日本語版)、7月(英語版)  
前回…2012年6月(日本語版)、7月(英語版)

【表紙コンセプト】

表紙はサトープリンティング株式会社の社員によるデザインです。「環」の中に、グローバルや環境をイメージする写真、そして、働く社員の笑顔を取り入れ、サトーグループの未来、社会への姿勢、取り組みを表現しました。

より詳細な情報は、Webサイトでご確認ください。  
<http://www.sato.co.jp>



# あくなき創造で持続可能な社会を

わたしたちサトーグループは、「あくなき創造」を社是に、全社員が創造力を持って「持続可能な社会づくりへの貢献」を実感できる仕事に取り組んでいます。

## あくなき創造(社是)

「人も企業も自らの啓発によって世に役立つことが使命である」と考えた創業者の佐藤陽は、会社の発展のために全員が一致協力し、創造力をもって仕事をする事の大切さを全員が意識するため、1969年、社是として「あくなき創造」を制定しました。



## サトー企業理念 (SATO Values)

社是の「あくなき創造」を原点に制定された企業理念は、グローバル化、多様化が進む社会において、全社員がひとつにまとまる「ぶれない軸」となっています。

### 使命 (Mission)

優れた製品・サービスでお客様の新たな価値を創造し、より豊かで持続可能な世界社会の発展に貢献することを使命とします。

### ビジョン (Vision)

自動認識ソリューション事業で世界ナンバーワンになること。  
そして「正確・省力・省資源」「安心」「環境保全」を実現し、世界中のお客様から最も信頼される企業になること。

### 信条 (Credo)

- ・「あくなき創造」の精神の下、変化と新しいアイデアを追求し、失敗を恐れず顧客志向のイノベーションを推進します。
- ・真のプロとして、お客様の期待を超えることにこだわりを持ち、常に全力を尽くします。
- ・物事をありのままに見て、なすべきことを今すぐ実行します。
- ・すべての社員を個人として尊重し、お互いに信頼し合い、そしてチームとして一致協力します。
- ・大企業病につながる形式主義を排除し、自由闊達な組織であり続けます。
- ・得られた成果を、株主・社員・社会・会社の四者に還元します。

## 本業による社会貢献

サトーグループは創業以来、バーコードやICタグなどの自動認識技術を活用してお客様の業務に「正確・省力・省資源」をもたらすソリューションを提供してまいりました。2012年は、わたしたちが培った経験と技術をさらに進化させ、「安心」「環境保全」の実現を新たな使命としています。例えば、食品のトレーサビリティシステムや、医療現場のヒヤリ・ハットを防ぐ仕組みで安心のニーズに応えることです。また、3R(リデュース・リユース・リサイクル)を推進する製品の開発・提供を通し環境保全への貢献もめざしています。

現在は、自動認識にとどまらないビジネスを創出するために事業領域を広げ、RFIDをはじめとした新しい技術に注力する新技術の事業や、環境関連の製品・サービスに特化する環境事業など、新しい市場の開拓にも取り組んでおります。たとえ事業が多様化しても「本業で世界の人々が明るく暮らせる持続可能な社会に貢献する」という理念は変わりません。

●事業領域概念図



## 教育書「サトーのこころ」

サトーグループには、社員が心をひとつにして毎日の仕事に取り組み、企業活動を通して社会に貢献するための礎となる行動規範「サトーのこころ」があります。1990年から2007年までサトーの社長・会長を務めた故・藤田東久夫が「サトーグループをいつまでも若々しく、楽しく、心がワクワクするような会社になりたい」という願いを込めて執筆したもので、世界8カ国の言語に翻訳し、海外拠点を含めたグループ全社員で共有しています。

「サトーは社会貢献を実感できない事業は、たとえ儲かってもやる気はありません。」(教育書『サトーのこころ』より)



## サトーのエスプリ

- ・ すぐやる
- ・ 他と違うことをやる。同じことなら先駆けてやる
- ・ 形式にこだわらない
- ・ 変化をよるこぶ
- ・ 現地に行く
- ・ クレームから逃げない
- ・ 課題を自ら進んで探す心意気
- ・ 妥協せず、しつこい
- ・ 繰り返す

# サトーグループのコアビジネス

サトーグループの製品は、社会のさまざまな場面で活躍しています。  
一つひとつの現場の課題と向きあい、お客さまの信頼に応えるソリューションを提案しています。

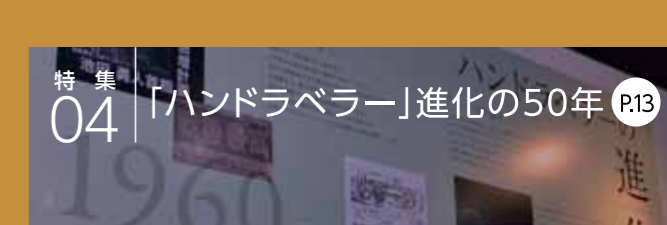
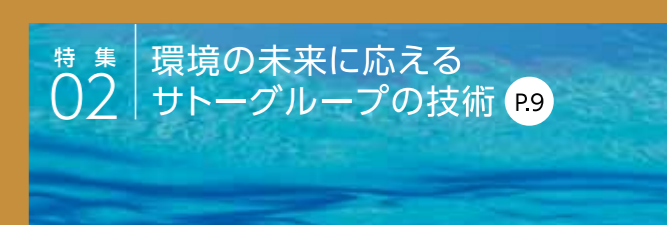
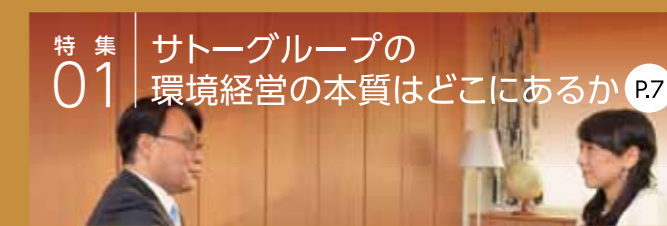
サトーグループは、バーコードや2次元コード、RFIDなどの自動認識技術を活用し、さまざまな現場の「物」や「人」の情報(=データ)を的確かつ効率的に収集(=コレクション)し、情報処理系のシステムに送る「DCS&Labeling」\* という独自のビジネスモデルを展開しています。

\*Data Collection Systems & Labeling (データ・コレクション・システムズ・アンド・ラベリング)の略



## そして未来へ

「DCS & Labeling」を基軸に「正確」「省力」「省資源」「安心」「環境保全」など社会・環境課題の解決に挑むサトーグループの、次代に向けた経営・技術開発・事業展開の動きの一部をご紹介します。



### サトーグループが活躍するフィールド

<p>運輸・倉庫</p> <p>各種物流ラベル</p>	<p>小売・小売卸</p> <p>マークダウンラベル</p>	<p>アパレル</p> <p>ブランドタグ</p>	<p>食品製造・加工</p> <p>商品シール</p>	<p>製造</p> <p>現品票</p>	<p>医療・医薬</p> <p>リストバンド</p>
-----------------------------	--------------------------------	---------------------------	-----------------------------	----------------------	----------------------------

特集  
01

# サトーグループの 環境経営の本質はどこにあるか



サトーホールディングス株式会社  
代表取締役執行役員社長 兼 CEO  
**松山 一雄**

立教大学  
経営学部経営学科教授  
**高岡 美佳氏**

## 対談

サトーグループは1940年の創業以来、お客さまの現場の「正確・省力・省資源」の実現を通じた社会貢献を使命としてまいりました。そして2012年、「正確・省力・省資源」に「安心」「環境保全」という新たな使命を加え、企業のめざす方向性を示す新しいスローガン「あくなき創造で持続可能な社会を」とともに本格的な環境経営に乗り出しました。サトーグループが推し進める環境経営、その現状と課題、さらには未来の可能性に関し、立教大学経営学部・高岡教授との対談を通して社長の松山が語ります。

### 「安心」の見える化

**高岡** 御社の資料を拝見し、環境にしっかり取り組む企業という印象を受けましたが、従来の理念である「正確・省力・省資源」と、新たに加わった「安心」「環境保全」の関係はどういう位置づけなのでしょう？

**松山** まず「正確・省力・省資源」ですが、バーコードやRFIDのような自動認識技術

を活用して業務の正確化、効率化につなげるだけでなく、人間を単純作業から解放し、より創造的な仕事をしてもらうという目的があります。また省資源という点では、在庫管理や商品配送などの業務における非効率性や人為ミスなどを減らすことで、資源のムダを少なくしようという意味が込められています。

**高岡** 自社の省資源だけではなく、本業を通じてお客さま企業のムダを減らす省資源ということですね。

**松山** はい。生産者から消費者まで動くモノに情報をつけ、物流の正確化をはかります。例えば在庫管理が正確になれば結果としてモノのムダがなくなり、ほしい物が欠品しているという状態が減って消費者メリットも大きくなるという論理です。さらに万が一商品に不具合や事故があった場合のロット特定を可能とするトレーサビリティも可能になります。当社はB to Cのビジネスではありませんので、

消費者に直接商品やサービスを提供するという形ではなく、物流をはじめとする社会機構や産業インフラの「黒子」的な存在としてしっかり社会貢献しようという考えです。

**高岡** そのトレーサビリティが「安心」につながるというわけですね。

**松山** おっしゃるとおりです。例をあげれば、当社は現在「福島のお米のトレース」に取り組んでいますが、これはお米の放射性セシウム量を測り、基準値以下のものだけに「検査済ラベル」を貼り出荷するものです。検査済ラベルの2次元コードを読むと、産地や検査日、検査結果の情報が掲載されたホームページにつながる仕組みです。サトーではこの検査済ラベルや生産者情報のラベルなどを納入しています。

**高岡** まさに生産から消費まで一貫した「安心の見える化」ですね。このコンセプトはさまざまなカタチで応用できると思いますが、ほかにはどのような領域で取り組まれていますか？

**松山** 医療分野では患者さんの身につける「リストバンド」があります。リストバンドにID情報をもたせ、照合することで投薬ミスをなくするという「安心」を提供しています。

**高岡** 最近、学生が小売店舗の食品に対する消費者意識調査をしましたが、消費者はトレーサビリティやオーガニックなどに関心が高く、「安心」に對価を払う意識が高いという結果が出ています。御社の場合、お客さまはもとより社会に対し、正確・省力・省資源による物流の効率化と無駄の排除で「物流のコストダウン」をはかり、安心の見える化という付加価値で「商品の売価アップ」をはかるといふ、2つの意味で貢献していることになりませぬ。

### 積極的な環境商品の開発

**高岡** 「環境」という言葉をビジョンに加えたのは、先ほどのお話にもあったように、省資源によって廃棄物を減らすという考えを明文化し、環境に本腰で取り組むという意図でしょうか？

**松山** それに加え、環境商品の積極的な開発という意図があります。当社は現在「エコナノ」というラベルを提供していますが、これは廃棄物として焼却されるときに発生するCO<sub>2</sub>を吸収し、通常品に比べ約20%削減する世界初のラベルです。こうした商品を積極的に開発し、社会に提供していきたいですね。

**高岡** まさにダイレクトな環境商品ですね。ただし環境商品はお客さまメリットの半面コストアップというデメリットも考えられますが、その点はいかがですか？

**松山** コスト的には多少アップします。しかし、特に環境経営意識の高い企業にはその価値を認めていただける事例が多くなってきています。

### 環境経営の課題

**高岡** 環境経営を進める上での課題はどこにあるとお考えですか？

**松山** 当社の経営理念を具現化しているのは社員の自発的な創意工夫です。社員一人ひとりがより高い環境意識を持つこと。そして、それに基づく社員の創意工夫をいかに経営に反映するかが一番重要な課題だと思えます。

**高岡** 御社には、社員が社長に直接提言できる「三行提報」という独自の制度がありますよね。それでもまだ足りない？

**松山** 制度を活かす体制の問題ですね。「三行提報」という良い制度から毎日上が

ってくる面白い発想をもっと迅速に実行しなければならないと思っています。スピードが命ですから。

**高岡** 具体的な方策を考えていらっしゃいますか？

**松山** 一つは自由闊達で機動力がある職場を実現するための分社化の推進です。これを通じて発想を素早くカタチにして社会にイノベーションを起こすと同時に、当社のDNAをしっかり受け継ぐ次代のリーダーの育成にもつなげたいと考えています。

**高岡** そのためには、社外から新しい力を積極的に導入することや、女性の能力活用、また外国籍社員の活用などダイバーシティの推進が不可欠ですね。

**松山** そのとおりです。数値目標こそ設定していませんが、女性役員の数は確実に増えていますし、外国籍社員の採用や登用も進めています。また、分社化の動きも具体的に始まっています。

**高岡** 昨年、新しいビジネスをスタートしましたよね。それも分社化の一環ですか？

**松山** はい、介護・福祉ビジネスを推進する「サトーアドバンス」という新会社がスタートしましたが、これはベテラン社員の発想から生まれた会社です。今後はこうした社内ベンチャー設立、分社化という動きを加速させたいと考えています。

**高岡** 本業でお客さまの省力化・省資源化を支援し、しかも環境保護へ積極的に向かっている……それはまさに御社の強みであり、ビジネスそのものがCSRと言えるかもしれません。また、人財というパワーを可能な限りカタチにする体制づくりなどのお話をお伺いし、大いに納得いたしました。今後、御社の環境経営やCSR、人財活用などが実践されていく状況に、ぜひ注目したいと思います。



### PROFILE

**高岡 美佳** Mika Takaoka

立教大学経営学部教授。東京大学大学院・博士課程を修了し、博士号を取得。専門は消費者行動論、流通システム論など。CSRや環境問題にも熱心に取り組む。  
【著書】「地球温暖化とグリーン経済」(生産性出版)「サステナブル・ライフスタイルナビゲーション」(日科技連出版社)「CSRと企業経営」(学文社)など多数



特集  
02

# 環境の未来に応える サトーグループの技術

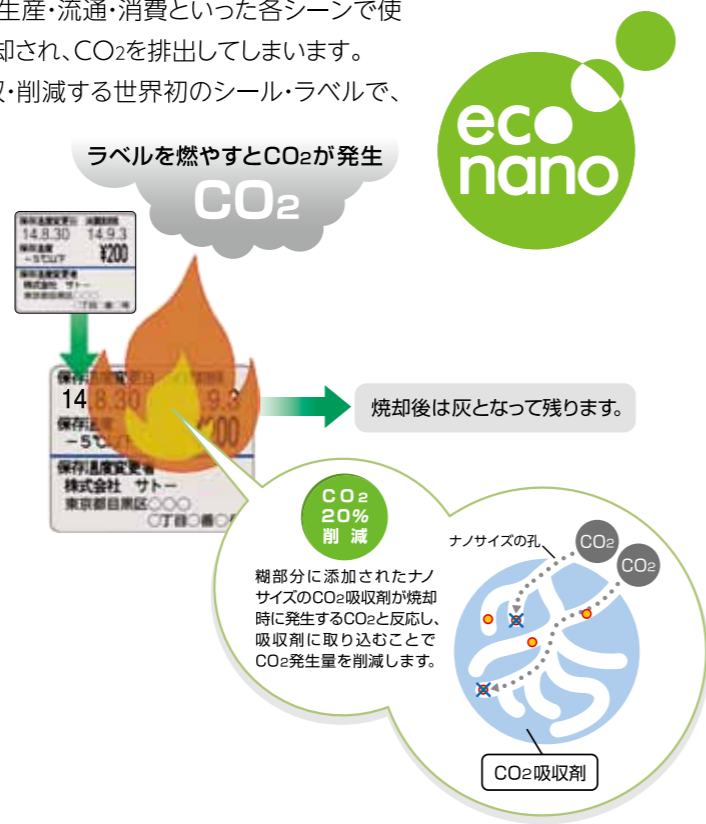
サトーグループは、地球環境の未来を考え、環境保全に役立つ技術・製品の開発・製造を推進しています。

## 過去250年間と比べ、約5倍のスピードで海水pH値が酸性化

地球環境は年々悪化の一途をたどっています。近年の人間活動の拡大に伴って二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)やメタンなどの「温室効果ガス」が大量に大気中に排出され、地球温暖化が深刻な問題になっています。大気中のCO<sub>2</sub>の増加により、本来弱アルカリ性の海水の酸性化が進行し、表面海水中の水素イオン濃度指数(pH)は10年間あたり約0.02の割合で低下しています。これは過去250年間のpH低下量と比べると約5倍のスピードです。このまま酸性化が進むと海洋が大気から吸収できるCO<sub>2</sub>の量が減り、地球温暖化が加速することも懸念されています。

### 世界初! 焼却時に発生するCO<sub>2</sub>を吸収・削減するシール・ラベル「エコナノ®」を開発

温室効果ガスの筆頭であるCO<sub>2</sub>。それを「草木のように吸うことができれば…」という思いがエコナノの開発につながりました。生産・流通・消費といった各シーンで使用されたラベルは、いずれ可燃ゴミとして焼却され、CO<sub>2</sub>を排出してしまいます。エコナノとは、燃焼時に発生するCO<sub>2</sub>を吸収・削減する世界初のシール・ラベルで、東京理科大学 阿部正彦教授と東京理科大学発のベンチャー企業アクティブ株式会社 およびサトーグループで開発に成功しました。NVC(ナノベシクルカプセル)技術を活用したCO<sub>2</sub>吸収剤をラベルの粘着剤に添加し、燃焼時の熱に反応してCO<sub>2</sub>を超微細なカプセルに閉じ込めます。焼却後に灰として残すもので、再度CO<sub>2</sub>を放出することはありません。エコナノを使ったラベルは通常のラベルに比べCO<sub>2</sub>の量が約20%減っていることが実証されています。今後、より多くのラベルがエコナノになれば、CO<sub>2</sub>発生量を抑えることができ、ひいては地球温暖化の進行を遅らせることができます。



### 導入事例1 ユニー株式会社様

#### エコナノの「おつとめ品ラベル」を全店舗でご利用

環境省の「エコ・ファースト制度」にいち早く参加し、持続可能な社会をめざすユニー様では、さまざまな環境への取り組みを行っています。そのひとつとして、スーパーマーケット『ピアゴ』『アピタ』の200以上の店舗で、「おつとめ品ラベル」にエコナノラベルをご採用いただきました。おつとめ品ラベルは日々多くの商品に使われており、トータルで見ると大きなCO<sub>2</sub>削減効果が期待できます。



おつとめ品ラベル

VOICE

#### エコナノで環境に対する姿勢を体現

おつとめ品ラベルは、売れ残りをなくしたい、食品廃棄物を減らしたいという想いから使用しています。エコナノを使うことで、CO<sub>2</sub>までも削減できるわけですから、ユニーの環境に対する姿勢を体現できる最適なツールのひとつとなっています。エコナノラベルを通じて、お買い物に訪れたお客さまが「ユニーのお店に来れば、少しでも環境にいいことができる」と思ってもらえると嬉しいです。



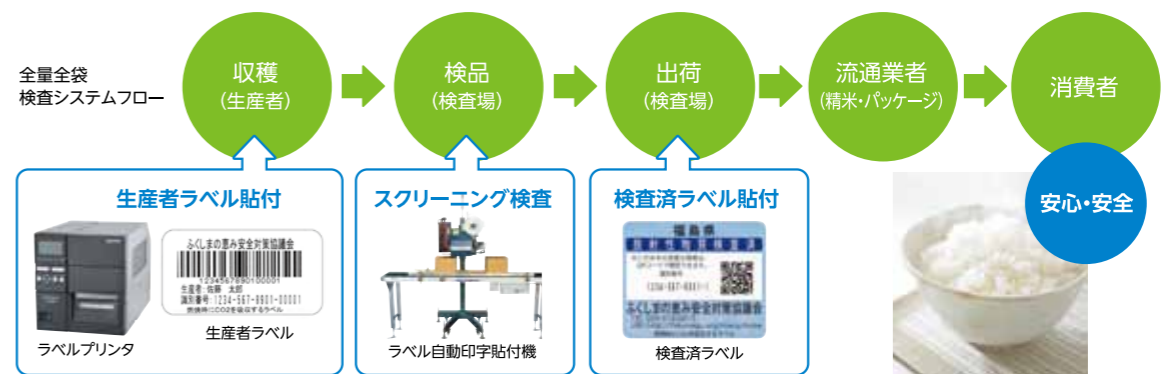
ユニー株式会社  
環境社会貢献部 部長  
百瀬 則子氏

### 導入事例2 ふくしまの恵み 安全対策協議会様

#### 福島県のお米の全量全袋検査に採用されました

福島県は消費者に食の安心を提供するため、農業者、関係機関などと共同で、2012年産米について放射性物質の全量全袋検査と、その結果を開示する「農産物安全管理システム」の運用を行っています。サトーグループはその中で、生産者情報を表示する「生産者ラベル」や検査に合格した米袋に貼る「検査済ラベル」や検査に合格した米袋に貼る「検査済ラベル」を、ラベル発行用のプリンタ、ラベル自動印字機などを福島県に納品しました。ラベルはどれもエコナノが使用されているほか、生産者の「なりすまし」や「貼り替え」などの偽造を防止する工夫と技術が施されています。

ラベルはどれもエコナノが使用されているほか、生産者の「なりすまし」や「貼り替え」などの偽造を防止する工夫と技術が施されています。



# 高齢化社会への挑戦

高齢化が進む日本において、高年齢者が活躍できる場をいかに確立させるか、が課題となっています。サトーグループでは、ベテラン社員がワクワクしながら働き、社会貢献と会社の収益につながる体制づくりに挑戦しています。

## さまざまな社員が輝ける職場づくりをめざして

2013年4月、「改正高年齢者雇用安定法」の施行により、希望者を65歳まで雇用する制度の導入が始まりました。高齢化が進む日本では労働人口の減少が見込まれており、ベテラン人財の能力をどのように活かすかは企業にとって重要な課題となっています。多様性を重んじるサトーグループでは、さまざまな人財が活躍できる職場環境づくりに取り組んできました。1993年には女性営業社員がシール専任

営業として活動を開始しました。2007年には時代に先駆け定年年齢を65歳に延長、2011年には生涯現役型雇用をめざし、65歳以降の社員を対象に会社と相談してリタイアする時期を決める「あなたと決める定年制」を導入しています。そして2012年7月、サトーグループはベテラン人財の活性化に向けて、さらに積極的なアプローチをとりました。それが、「サトーアドバンス株式会社」の設立です。

## ベテラン人財の強みを活かす

サトーアドバンス株式会社は、豊富な営業経験を持つ50代以上のベテラン社員を中心としたメンバーで構成される営業会社です。サトーグループにとって新規市場となる介護・福祉業界の開拓と、値付け機「ハンドラベラー」のグローバル市場での拡販という2つの事業に挑みます。ベテラン社員が今まで培ってきたノウハウや人脈・人生経験を活かすことで、お客さまの立場に立ち、付加価値の高いサービスを提供することが狙いです。また、ベテラン社員がワクワクしながら率先して現場に出て、新しいことに挑戦できる環境を整備することが、モチベーションを生み、結果的に企業内で収益を生む事業集団を形成することにつながると考えています。高齢者人口の増加に直面した日本では、急速に介護・福祉事業が拡大しています。しかし介護業界はほかの業界と比べ歴史が浅く、ITのインフラ整備・標準化が遅れています。サトーグループには流通・製造・物流・食品・医療などさまざまな業界を対象に、バーコードやICタグを活用したソ

リューションを提供してきた実績があります。サトーアドバンスではこのノウハウを活かし、ITシステムの情報インフラ整備推進をはじめ、介護ビジネス事業者や福祉用具のレンタル企業などを対象に営業を進め、介護・福祉事業者および利用者に安心な社会を提供し、「本業による社会貢献」を実践していきます。



イギリス駐在メンバー



サトーアドバンス株式会社の国内メンバー

## 新たな事業拡大と雇用を生むために

サトーグループは1977年に新卒定期採用を開始しましたので、2014年度以降は60歳を迎える社員数が継続的に増加します。企業の永続的な発展のためには、60-65歳の社員がワクワク感を持って働き、企業の収益に貢献できる環境をつくることを避けては通れません。しかし、60歳に到達してから新たな挑戦を行うことは至難の業と考え、50歳代の経験豊富な社員が集まり、この問題に挑戦を始めました。この挑戦を始めるにあたり、2つのルールを設けました。

- ①会社が何をしてくれるかを期待するのではなく、自ら貢献可能な事業を自らの手で興す。
- ②サトーグループの現行コア事業とは内部バッティングしない新規事業や、古き製品の事業再構築に注力する。

以上2つのルールに基づいた実践は、新たな事業拡大と雇用を生むため、日本が抱える他方の問題「若者の雇用」の解決にも通じ、ベテラン社員の子どもや孫を救うことにも通じます。



サトーアドバンス株式会社  
代表取締役  
羽生 光孝

VOICE

### 豊富な経験をバックに 商談開拓で貢献する

昔営業でハンドラベラーを売っていましたが、また営業で外を回る日がくるとは思いませんでした。数年現場を離れていたにもかかわらず、意外にスムーズに営業ができていくことが嬉しいです。日本では段階的に定年が65歳まで延長される今日、顧客はもとより働く人たちも高齢化が加速します。わたしは今、高齢者向けに大きい文字のハンドラベラーを販売していますが、日本全体が高齢者に配慮した社会になる、その一助となれば幸いです。気力と体力では若い人にはかないませんが、豊富な経験をバックに商談開拓で貢献していきます。



サトーアドバンス株式会社  
HLSソリューション事業部  
前田 隆彦

VOICE

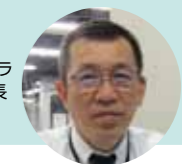
### 高齢者に見やすいラベルへ

ハンドラベラーは以前から使っていましたが、商品の大きさによって従来のラベルだと使いづらいことがありました。今回、「大きいラベルで値段が見やすくなった」「ラベルでもポイントアップなどの表示ができる」「年配のお客さまのために大きい字で印字できる」などの利点から大きな印字のハンドラベラー(UNO)を活用しました。お客さまからは「値段が見やすくなってよかった」との評価をいただいております。売り上げアップにもつながっています。



改良前のラベル

改良後のラベル



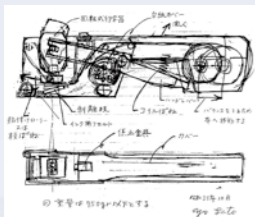
株式会社ヨドバシカメラ  
販売本部 取締役部長  
松井 昭二郎氏

# 「ハンドラベラー」進化の50年

1962年に創業者である佐藤陽が発明した「ハンドラベラー」は、発売から50周年を迎えました。その間、小売分野におけるプライスマーキング(値付け)作業の省力化ニーズは流通業の発展とともに多様化し、ハンドラベラーも時代に合わせて改良が重ねられてきました。その歴史をたどります。

## ハンドラベラー誕生秘話

戦後、飛躍的な経済成長を遂げた日本ではスーパーマーケットが登場。店にはたくさんの商品が並びようになりました。その一つひとつに値段の書かれた紙を貼る作業を見て「何とか作業を楽にできないか」と考えた佐藤陽は、ある日胸ポケットに入れたシールを見てひらめきます。台紙を折るとシールがきれいに剥がれる…これを応用し携帯型価格印字貼付機「ハンドラベラー」が生まれたのです。



ノートに描いた携帯型価格印字貼付機のデザイン



50%OFF  
SALE  
¥19800

**ハンドラベラーは未来へ!**  
高齢者人口の増加に伴い、シニアにやさしい大きな文字の製品を発売。これからも時代とともに進化していきます。

●2012年(平成24年)

2000



本体価格¥10000  
税込¥10500

## 消費税総額表示に対応

2004年、価格表示において消費税額も含めた支払い総額を示すことが義務付けられました。市場の動きを捉え増産体制をいち早く整えたことで、小売各社にハンドラベラーを安定供給しました。

●1990年代(平成2年~)



**物流、製造の業界でも活用**  
物流の入荷管理や製造の品質管理などにも採用され、小売業以外でも用いられるように。

●1980年代(昭和55年~)

1980



## 多段印字機の登場

値段のほかに食品の消費期限など、日付表示が可能に。

●1971年(昭和46年)~



## POS用ハンドラベラーの開発に挑戦

商品管理のためにバーコードを利用するPOS(販売時点情報管理)システムが登場。それを受け世界初のPOS用ハンドラベラーを開発。しかし、バーコードを安定して読み取れるだけの印字品質が出ませんでした。※この失敗がきっかけとなり、サトーグループはバーコードプリンタの開発に着手。現在は主力事業の一つに成長しています。

●1974年(昭和49年)~



## ハンドラベラーを開発

値付け作業の煩雑さから人びとを開放する省力化商品の登場です。

●1961年(昭和36年)

1960

ハンドラベラーについてもっと知りたい方はこちら→



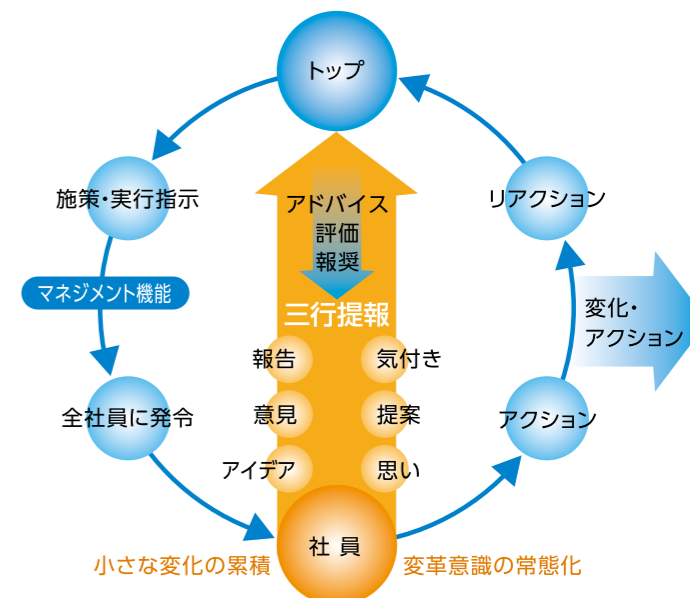
# 経営に社員全員が参加する「三行提報」

三行提報は、社員全員が経営トップに対して毎日創意・くふう・気付きや対策を報告するサトーグループ独自のナレッジ・マネジメント・システムです。これにより、「全員参加による経営」を実現し、「透明な経営体制」を支えています。

## 三行提報制度

サトーグループのコーポレートガバナンスに重要な役割を果たしているナレッジ・マネジメント・システム「三行提報」は、正式名称を「会社を良くする創意・くふう・気づいた事の提案や考えとその対策の報告」といい、全社員が毎日、3行(127文字)で経営トップあてに気づきや思い、意見、提案などを書いて提出しています。

これにより、経営トップはいち早く社内外の環境を把握し、必要な施策を講じることができます。経営トップは現場の意見を吸い上げて経営に活かし、社員は会社を良くすることに心を砕き、工夫して、日々行動する—いわば「全員参加による経営」を実現する仕組みです。



## 三行提報の提出率

国内全社員と海外幹部からの1日約2,100通の提報が、フィルタリング担当によって約40通/日に取捨選択され、毎日経営トップに提出されます。2012年度の提出率は99.99%でした。

2012年度提出率 **99.99%**



## 三行提報から生まれた改善事例

多くの社員からの提案

### ①「にてらシール」をエコナノへ

社員の名刺に貼る「にてらシール」(似顔絵のシール)をエコナノ(環境に配慮した基材のシール)にすることを提案します。エコナノ表記をすることで名刺交換の際にもアピールできます。サトーグループでしか作ることのできない、環境保全に貢献できる商品なので、まず名刺交換の多い部署から変更していくことを提案します。

**改善案** 2012年6月から、各拠点営業より順次、エコナノ仕様の「にてらシール」への変更を進めています。



にてらシール

### ②英語提報の奨励

先日、上司より「言語習得に興味のある社員を対象に英会話の授業をしたらどうか」とご意見をいただきました。グローバル化をふまえて言語スキルの重要性を感じ、推進されていることがよくわかりました。

**改善案** この提報の内容の通り、関西事業部で英語提報の書き方教室が開かれるようになりました。



●提案者  
株式会社サトー  
ヘルスケアカンパニー  
グローバル推進ユニット  
高橋 友里



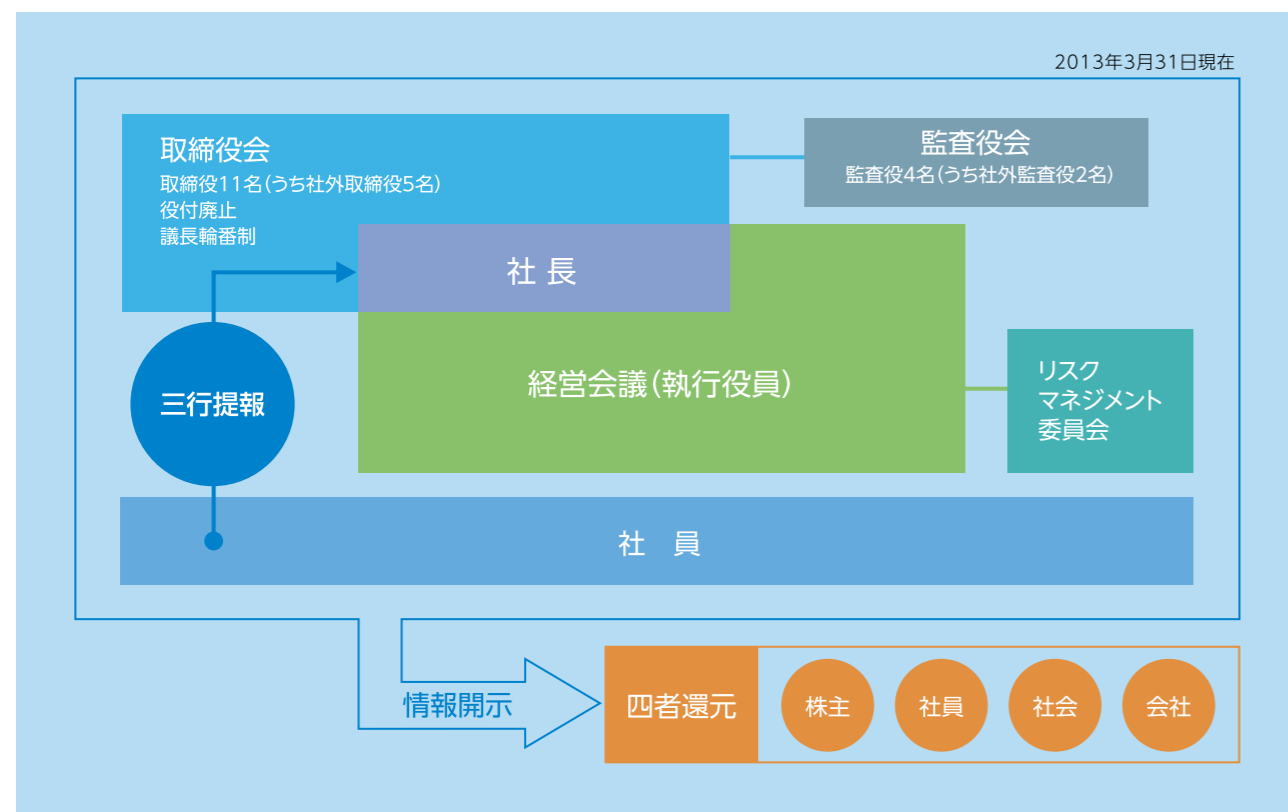
# 社会の信頼に応えるために

サトーグループは社会の信頼に応えるため、経営監視機能と業務執行機能を分離するコーポレートガバナンスをはじめ、「なすべきことをなす」企業体制・風土づくりを意欲的に推進しています。

## コーポレートガバナンス体制

経営監視機能と業務執行機能を分離させ、公正かつ透明性の高い経営に取り組んでいます。取締役、執行役員ともに多様性を重視し、取締役会は社外取締役5名を含む11名で構成し、経営の意思決定を行

うとともに、執行役員の業務執行を監視しています。なお、社外取締役および社外監査役全員は独立役員として指定しています。



## コンプライアンス教育「仕事のやり方基本要綱」

「仕事のやり方基本要綱(全33カ条)」はサトーグループの行動指針であり倫理規定です。これは創業者・佐藤隆が「若い頃から身をもって体験した、日々の仕事をやっていく上において、気を付けなければならない事項」を列記したもので、1982年に作られ、その後改訂を加えながら今日に至っています。この「仕事のやり方基本要綱」には、現実に起こりうる事項に対して、当然「なすべきこと」が具体的に分かりやすく書かれており、社員のコンプライアンス意識を啓発しています。

## 内部統制

「業務運営の透明性とクオリティを高める全社運動」と内部統制制度への対応を進めています。社会の発展に貢献できるより良いサービスの提供、円滑な業務処理、透明性のある正確な決算開示のため、この運動を全社一丸となって強化しています。

## 公益通報窓口

法令違反行為の未然防止・早期発見のため、公益通報窓口を設置しています。また、経営トップ宛てに社員全員が直接、提案や報告をする独自の仕組み「三行提報」で情報を収集し、不透明な事象が事故に至らないように予防措置が取れる態勢を整えながら、悪い情報ほど早く報告することを奨励する風土を築いています。

## リスクマネジメント

サトーグループでは海外を含めた各部門代表による「リスクマネジメント委員会」を毎月開催しています。委員会ではさまざまなリスク情報を共有し、対応策の協議や状況の報告を行っています。災害発生時における被害の最小化と早期復旧に向けた事業継続計画(BCP)も策定し、リスク管理体制の整備を進めています。また、四半期ごとに国内全社員および関係者を対象に、安否確認システムを使った訓練を実施しています。

## 労働安全衛生管理

労働安全衛生委員会では職場巡回点検の実施、空気環境測定の実施をはじめ、労働環境の安全をはかるために活動しています。また、定期的に救急救命講習を行いAEDの使い方や人工呼吸のやり方などを指導したり、日ごろから避難訓練を実施したりして万一の場合に備えています。



## ハラスメント対策(人権)

セクシャルハラスメントやパワーハラスメント専用の相談窓口を設け、社員が安心して働ける職場づくりを推進しています。窓口が届いた相談は必要に応じて内容や事実関係を確認し、本人の意向に沿った問題解決に向けてサポートしています。また、社内報や社内教育システムなどを通じて、ハラスメント撲滅を推進しています。



社内に貼られているハラスメント撲滅のポスター

## 知的財産

サトーグループは、「あくなき創造」を社是とし、常に新しい製品やより良いサービスを社会に提供してきました。これまでに、業界初の「ハンドラベラー」、世界初の「バーコードプリンタ」、世界初のCO<sub>2</sub>を吸収するラベル「エコナノ」など、時代を先取りした製品を発売し、新たな市場を創り出してきました。その中で産み出された知的財産は、サトーグループを支える貴重な財産です。これからも知的財産の創造・保護・活用を通じて社会に貢献していきます。また、知的財産のリスクに対する予防活動を継続していきます。



## 情報セキュリティ

サトーグループでは、事業活動を通じて取り扱う情報について、不適正な開示、漏洩、不当利用の防止および保護活動に取り組むために、情報セキュリティの管理体制を構築しています。重要な情報は、社外の安全なデータセンターに設置したサーバで管理し、災害などのリスク対策を講じています。さらに、利用できる情報の制限および利用記録の管理、個人情報などの機密情報の暗号化対策など、セキュリティの強化をはかっています。社内のe-ラーニングシステムを利用した社員教育の実施も行き、情報セキュリティの啓発活動を推進しています。



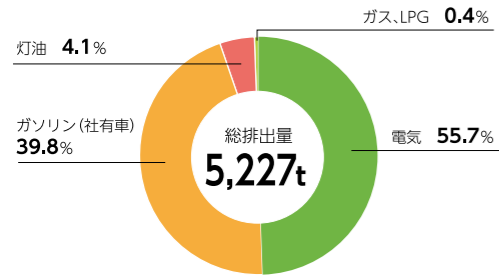
多くの個人情報を取り扱う株式会社イン・アウトでは2007年にプライバシーマークを取得

# 環境負荷低減のために

サトーグループは、環境保全が人類共通の重要課題であり、持続可能な社会に不可欠であることを認識し、お客さまと一体となった製品・システムの開発によって環境保全に取り組んでいます。

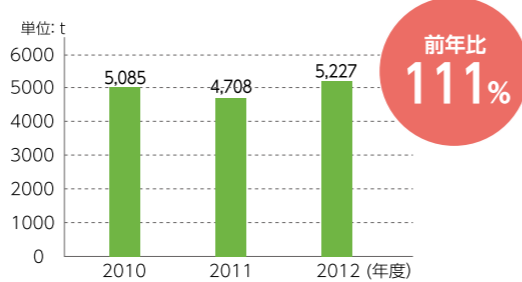
## サトーグループ国内のCO<sub>2</sub>排出状況(2012年度)

2012年度、サトーグループ国内のCO<sub>2</sub>排出量は下図のとおりです。電気使用量については、電力会社の原発稼働停止の影響を受け、前年比100.6%でした。



## CO<sub>2</sub>排出量の推移

サトーグループ国内はCO<sub>2</sub>削減に取り組んでいます。2011年度は前年度比92.6%、2012年度は前年度比111%でした。

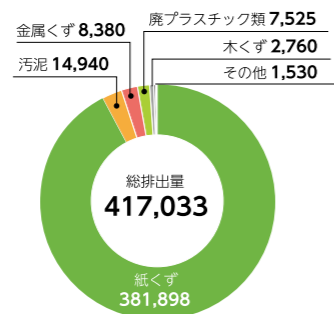


## 北上工場における「ゼロ・エミッション※」達成

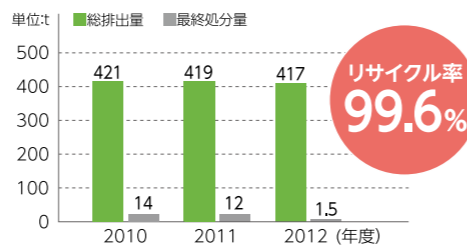
2012年度の廃棄物総排出量は約417t、最終処分量は1.5t、リサイクル率は99.6%でした。北上工場で発生する産業廃棄物すべてのリサイクルをめざし、生活ごみを除くすべての廃棄物のリサイクルを達成しました。引き続き廃棄物の低減に取り組んでいきます。

※廃棄物をすべて再資源化するための取り組み

2012年度の廃棄物排出量の内訳(単位:kg)

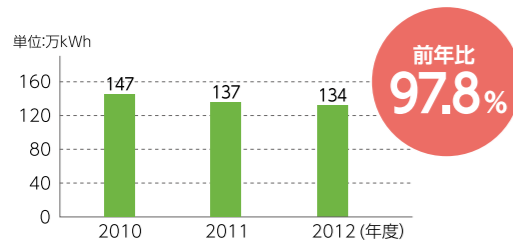


廃棄物排出量と最終処分量、リサイクル率の推移 (2012年度目標:リサイクル率97.2%)



## 北上工場における節電への取り組み

北上工場では、日ごろから節電対策を徹底して行いました。その結果、前年度比で2.0%削減しました。



## 環境マネジメントシステムISO14001の認証取得

国際的にビジネスを展開するグローバル企業として、製造・開発部門を中心に、国際環境規格ISO14001を取得し、組織活動、製品、およびサービスの環境負荷の低減といった環境パフォーマンスの改善を実施する仕組みを継続しています。

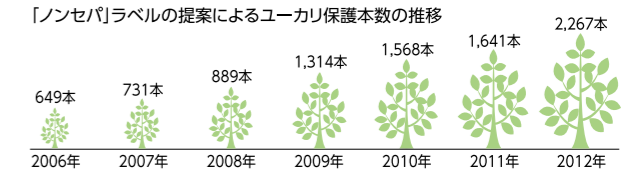
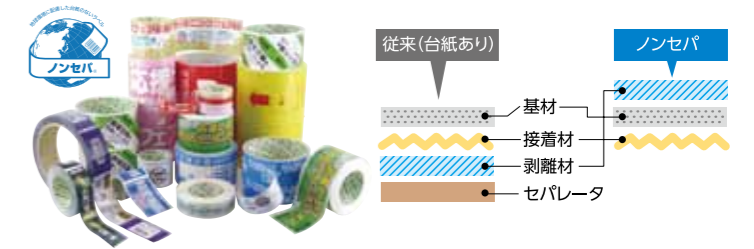
事業所・会社名	所在地
北上工場	岩手県
長岡事業所	新潟県
SATO MALAYSIA ELECTRONICS MANUFACTURING SDN. BHD.	マレーシア
SATO VIETNAM CO., LTD.	ベトナム
SATO ASIA PACIFIC PTE. LTD.	シンガポール
SATO UK LTD.	イギリス

## 製造工程から台紙を使わない「ノンセパ」

ノンセパは、台紙のないシール・ラベルです。原料となる木材の使用量を削減するだけでなく、製造工程の短縮や廃棄物(台紙)排出がなくなることによる使用エネルギーの削減につながります。

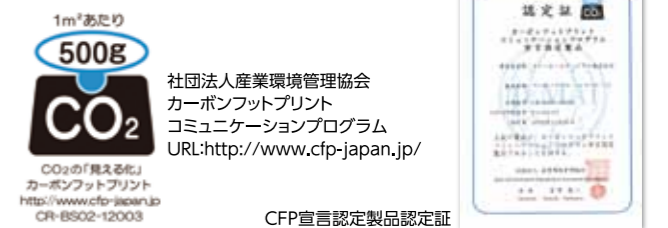
また、台紙付きラベルと比較した1巻き当たりの枚数が約40%増え、輸送コストや保管スペースが低減します。

2012年度のノンセパ生産量による森林資源の保護量はユーカリに換算すると2,267本です。



## CFP宣言認定を取得した「ノンセパ」シール・ラベル

2012年12月、「ノンセパ」がシール・ラベル業界で初めて「カーボンフットプリント(CFP)宣言認定」を取得しました。CFPとは、製品の原材料調達から廃棄・リサイクルに至るライフサイクル全体でのCO<sub>2</sub>排出量を分かりやすくマークで表示する仕組みで、CFPプログラムは、この「見える化」された情報を用いてのさらなるCO<sub>2</sub>排出量削減を目的としています。



## カーボン・オフセット付きサプライ

カーボン・オフセットとは、別の場所での温暖化ガスの排出削減量を使って、ある場所での排出量を相殺する考え方です。サトーグループはカーボン・オフセット付きサプライ製品でCO<sub>2</sub>削減に取り組んでいます。2012年度CO<sub>2</sub>削減量は約392tでした。

CO<sub>2</sub>削減価値の購入は、お客さまにご負担いただくだけでなく、サトーグループも一部負担し、カーボン・オフセットプロバイダを通じて国連認証のCO<sub>2</sub>削減プロジェクトを支援しています。



## リボンリサイクルサポートシステム

通常は産業廃棄物として処理される使用済みリボンを燃料として熱回収(サーマルリサイクル)およびセメントの原料として再利用(マテリアルリサイクル)するシステムです。

## グリーン調達

### 「サトー・グリーン・ファクトリー(SGF)」の制定

SGFはサトーグループ独自の環境保全活動の認定制度です。環境マネジメントシステム規格(ISO14001)を取得されていないお取引先さまに対し、ISO規格に準拠した独自基準の順守を要請し、導入を支援しております。また、導入後も定期的な監査を行っています。

### 環境管理基準の制定

製品(ハードウェアおよびサプライ)から梱包材に至るまで、有害物質を含んだ材料を使用しないために、サトーグループ独自の環境管理基準「SIS-001」を定め、お取引先さまに順守いただいております。「SIS-001」では各国の環境規制対象の有害物質の使用を禁止しています。

# お客さまへ安心と満足を提供するために

お客さまの「安心」と「満足」こそが、サトーグループの力の源泉です。  
サトーグループは品質にこだわり、お客さまの期待に応える商品・サービスをお届けします。

## ハードウェア

### 日本と海外の開発者が協力し、グローバルなハードウェア製品の開発をめざす

お客さまにとっての「最適」な1台を追求する—それがわたしたちのモノづくりへの基本姿勢です。

業種・用途ごとに異なるニーズに応えるため、食品・小売・製造・物流・医療などの現場に特化した機能やスタイルを持つ各種プリンタを開発、幅広いラインナップを揃えています。

2012年からはグローバル市場を見据え、スウェーデン、アメリカ、シンガポール、中国、台湾の拠点とともにR&D体制を強化しています。各国で蓄積された知見や技術ノウハウを共有・連携することでシナジーを生み、お客さまの新たな価値を創造できるグローバル製品の開発に挑みます。



VOICE

### 日本で働いてみて

わたしはもともと好奇心が強く、変化を楽しむ性格です。日本で働いてみて、開発方法に関して異なる経験や意見を持っている相手とお互い心を開き、学び合えることを知りました。お客さまとも、そのような姿勢を持って接していきたいです。

サトーテクノロジー株式会社  
シニアソフトウェアエンジニア  
Martin Dahlberg



## シール・ラベル

### 一貫体制の総合力が強みのシール・ラベル製品

サトーグループでは、プリンタなどハードウェアの開発・製造だけでなく、ハードウェアで使用するラベルについても、基材開発・製造から、デザイン提案、印刷、加工、検査、納品まで、すべての工程を自社で行える一貫した生産体制を構築しています。また、お客さまの使用環境や用途に合わせ、ハードウェアとの相性(マッチング)に優れたラベルをご提供しています。さらに、台紙の無いシール・ラベル「ノンセパ」のように、環境対策へのニーズに訴求する製品の開発にも積極的に取り組んでいます。

### 世界ラベルコンテストで6年連続の入賞

サトーグループでは、印刷技術とデザイン力向上のため、毎年シール・ラベルコンテストに応募しています。2013年には、アメリカで開催された世界のラベル印刷団体が参加する「第24回世界ラベルコンテスト」において、2つの賞を受賞しました。基本技術に忠実な画線の再現性が高く評価されました。



レタープレス  
(カラープロセス)部門  
最優秀賞「あぶら」

## 品質マネジメント

### 品質マネジメントシステム規格ISO9001認証取得状況

お客さまに安心していただける品質とサービスを提供するために、品質マネジメントシステム規格ISO9001を取得し、規格にのっとった活動を継続しています。

	事業所・会社名	所在地
ハードウェア 関連	サトーホールディングス株式会社 サトーテクノロジー株式会社 サトーロジスティクス株式会社 サトーシステムサポート株式会社 フィールド支援部 株式会社サトー ソフトウェア開発グループ	日本
	SATO VIETNAM CO., LTD	ベトナム
	SATO MALAYSIA ELECTRONICS MANUFACTURING SDN. BHD.	マレーシア
	無錫松幸電子有限公司	中国
	サトーホールディングス株式会社 サトープリンティング株式会社 目黒、北上、長岡、加須	日本
シール・ ラベル関連	SATO ASIA PACIFIC PTE. LTD.	シンガポール
	SATO AUTO-ID(THAILAND) CO., LTD.	タイ
	SATO NEW ZEALAND LTD.	ニュージーランド
	SATO UK LTD.	イギリス
	無錫松幸電子有限公司	中国

### グループ一丸で品質向上に取り組む

わたしたちは、お客さまに製品を安心してご利用いただくために、海外工場を含めた各部門代表者が参加する横断的な品質活動として「品質向上対策会議」を毎月実施しています。実態が見える化し全社で共有することで、製品の品質向上を追求しています。



品質向上対策会議

## アフターケア

### 修理・サポート対応体制

サトーグループは全国にサポートセンターをもち、トラブル発生時には最寄りのセンターのカスタマエンジニア(CE)が迅速かつ適切な修理をご提供するなど、お客さまの安定稼働のための保守サポート体制を整えています。またCE教育プログラムによって技術力向上に努めています。



動のための保守サポート体制を整えています。またCE教育プログラムによって技術力向上に努めています。

### 女性だけのCEグループ(カスタマケアグループ)を発足

サトーシステムサポート株式会社(保守・メンテナンス担当)は、2012年4月に女性エンジニアの組織「カスタマケアグループ」を立ち上げ、病院やアパレル業界など女性ならではの配慮やデリケートさが求められるお客さまへのサービスを提供しています。



グループ」を立ち上げ、病院やアパレル業界など女性ならではの配慮やデリケートさが求められるお客さまへのサービスを提供しています。

### 対応の速さに助かっています

複数のメーカーのプリンタを使用していますが、対応の速さはサトーシステムサポートが一番です。CEの方は、現場の稼働を最優先に考えて迅速に対応してくれますし、自分たちにもできる調整法を教えてくださいましたので大変助かっています。

株式会社アサイアン 大井TLCサービスデスク  
大堀 智氏

### お客さま相談窓口

全国のお客さまからのお問い合わせ・修理依頼にお電話で対応するコンタクトセンター(コールセンター)を設置し、ご意見・ご要望を関係部署と共有するなど製品・サービスの改善



につなげています。また電話対応研修を定期開催し、ボイスクルー(オペレーター)のスキルアップおよびお客さま満足度の向上に取り組んでいます。

# 社会との絆を深めるために

本業に邁進するなかで、さまざまな社会・環境支援活動が自然に派生してきました。日本だけでなく、世界中のサトーグループで地域に根ざしたグローバルな活動が行われています。

## 公益財団法人 佐藤陽国際奨学財団への支援

公益財団法人佐藤陽国際奨学財団は、1996年11月、サトーグループの創業者である佐藤陽が、グローバルな視野を持った人材育成のため、私財を投じて設立した財団です。創業当時、関係の深かった東南アジア・南西アジア諸国への恩返し趣旨で、当該諸国からの留学生や当該国への日本人留学生を支援しています。サトーグループは創業者の趣旨に賛同し、同財団の設立当初から物心両面でサポートしています。



財団スピーチコンテスト

## 公益財団法人 橋秋子記念財団 牧阿佐美バレエ団への支援

日本の芸術活動の発展と人材育成に力を注ぐ公益財団法人橋秋子記念財団・牧阿佐美バレエ団を支援しています。日本の舞踊界を牽引する牧阿佐美氏は、2008年に文化功労者に選ばれました。



橋バレエ学校のレッスン風景

## 一般社団法人 日本児童文芸家協会への支援

日本児童文芸家協会は、児童文芸家によって構成される内閣府所管の一般社団法人です。サトーグループは、「子どもたちに明るい夢と豊かな情操教育を与え、人材の育成を通して持続可能な社会の構築に寄与する」ため、その活動全般を支援しています。

## 教育支援

夏休みに、目黒本社勤務の社員の子ども(小学生対象)を招いて会社見学会を開催しました。「サトー製品に触れてみよう」「手話であいさつ」「お父さん、お母さんの職場訪問」など、盛りだくさんの内容で、子どもたちにお父さん、お母さんの仕事を知ってもらいました。また2006年からは中学生



対象の職場体験学習も実施しています。2012年度は西日本ロジスティクスセンター(奈良県)で2名の中学生が参加しました。

子どもの会社見学会

### VOICE

#### 子どもの会社見学会に参加して

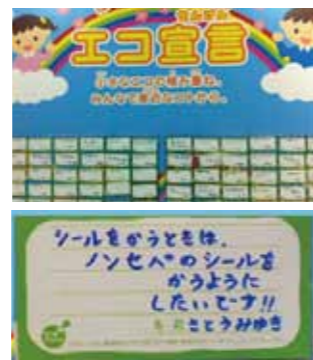
子どもが職場に来ることで仕事の邪魔にならないかと心配しましたが、素晴らしい会社見学会で親も子どもも大満足でした。「毎日、満員電車に乗って長い時間働いて大変なんだね。お母さん、お仕事がんばっているんだね」と子どもに認められて嬉しかったです。



サトーホールディングス株式会社  
人財開発室 人財開発グループ  
野口 真紀

## エコプロダクツ2012に出展

2012年12月に東京ビッグサイトで開催された環境展示会「第14回エコプロダクツ2012」に出展しました。ブースでは「小さなエコの積み重ね・みんなで身近なコトから」をテーマに、環境配慮に優れたシール製品を展示し、子どもたちに地球環境の改善・保護のための「小さな努力の積み重ね」の大切さを伝えました。



来場者の方々に書いていただいた「エコ宣言」

## 北上工場が地域貢献賞を受賞

北上工場は、地域への貢献活動が評価され「北上市地域貢献活動企業功績賞」を受賞しました。10年以上継続している花火大会翌日の清掃活動や近隣中学校への運動施設の無料開放、市内マラソンの給水ボランティア、交通安全シールの配布など地域に根ざす活動が評価されました。



交通安全シールを地域の新入学児童へ寄贈



花火大会後の清掃活動

北上市地域貢献活動企業功績賞の賞状

## シンガポールでの海岸清掃活動

シンガポールの3拠点では、海のゴミ問題に世界規模で取り組む「国際海岸クリーンアップキャンペーン」に毎年



参加しており、2012年9月にはサトーグループの社員と家族約60名が参加しました。

国際海岸クリーンアップキャンペーンへの参加

## ゴールドリボン・ネットワークへの支援

NPO法人ゴールドリボン・ネットワークの賛助会員として、2010年度より小児がん克服に向けての活動を支援し、リストバンドの収益の一部やゴールドリボン・ウォーキングのゼッケンシールを寄付しました。



ゴールドリボン・ネットワークのキャンプに参加した子どもたち

## マレーシアでの地域貢献活動

マレーシア工場では老人ホームにベッドなどを寄付しまし



マレーシア国家献血機構を招き、有志による献血を実施

た。また、国家献血機構を招いて献血を行っています。

## タイ・ラオスでの植林活動

タイの拠点では、10周年記念事業として2012年8月に1,500本のマングローブを植えました。サトーグループの社員約100名が参加しました。

また、王子グループのラオスでの植林事業にも参加して



マングローブの植林による環境保全活動

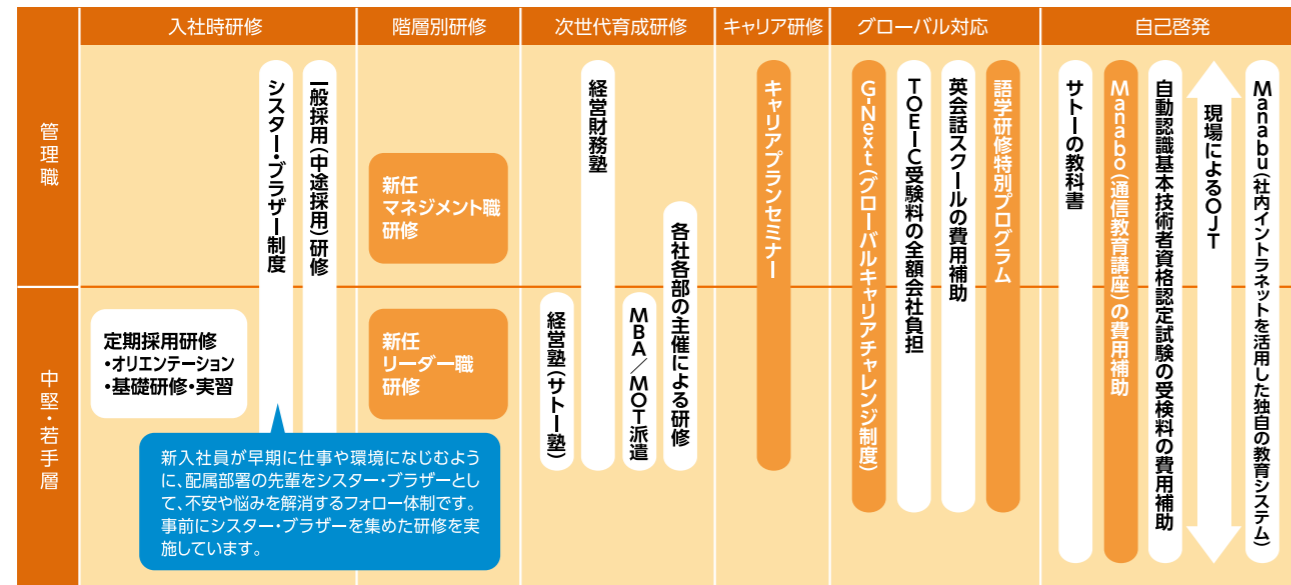
います。2013年3月までに計2,500万本分の植林に貢献しました。

# サトービジネスの源泉

サトーグループは、事業における付加価値を生み出す源泉は「人」であることを認識し、「社員が財産」という観点から、人材ではなく「人財」としています。

## ●人財育成

### 教育全体像



### サトウ塾(経営塾)での選抜教育

サトーグループの次代を担うリーダーの育成を目標に、2003年度から毎年実施しています。経営の戦略からマーケティング、アカウンティングの理論などについて学習を重ね、約8カ月の研修の集大成として経営トップに新しいビジネスプランを提案します。これまでに141名の社員が卒業し、2012年度は第10期生として13名の塾生が研修を修了しました。



サトウ塾の講義



サトウ塾の塾生

### 第1回中国CE技術競技会を開催

中国の各拠点でカスタマエンジニア(CE)として活躍している20名を対象とした筆記試験で3名を選抜し、2012年8月に上海において競技会を開催しました。プリンタの点検作業、部品交換などの技術を競うもので、審査の結果1位から3位までが表彰されました。お客さまに喜ばれるCEとしての技術向上と顧客満足向上のため、第2回以降も続けて行う予定です。また、中国のみならずアジア、ヨーロッパなど世界中のサトーグループにこうした競技会を広げていきたいと考えています。



中国(上海)での技術競技会

## ●多様な人財を活かして

### ダイバーシティ



「人種、性別、国籍、文化、宗教、年齢、学歴、障がいなどにかかわらず、一人ひとりの社員がお互いの個性を尊重しながら自由闊達に議論し、主体的に行動できる環境の整備に努めます」(「サトウのダイバーシティ宣言」より)とあるように、サトーグループでは多様性を持った人財を受け入れています。2011年から開始した秋採用では外国籍社員や海外大学の卒業生を採用しました。障がい者、シングルマザーの採用も積極的に行っています。

### ダイバーシティの階層別研修

上司ダイバーシティ研修、新任マネジメント職ダイバーシティ研修をはじめ、階層別の研修を行い、200名近い社員が出席しました。

ダイバーシティ経営企業  
100選に選ばれました



サトーグループは、経済産業省による「ダイバーシティ経営企業100選」に選ばれました。経営トップのリーダーシップのもと、変化を楽しむ風土、多様な発想を活かす社風を醸成する数多くのアクションを実施。社員が働きやすく能力を発揮できる環境を整備し、「経営のためのダイバーシティ」を根付かせる取り組みが評価されました。

### 女性社員の活躍

東証全上場企業3,543社のうち、女性役員がいる企業は524社(2012年7月末現在14.8%)です。サトーグループでは役員28名中、女性役員が3名います(2012年7月末時点)。

### 外国籍社員の活躍

日本のサトーグループでは、約40名の外国籍社員が活躍しています。営業、人事、広報、保守サポート、開発、研究など業種もさまざまです。日々英語と日本語が飛び交う環境で日本人社員と外国籍社員とが肩を並べて業務をしています。



外国籍社員を含めた  
新人研修

### 海外と日本の懸け橋として

海外の営業拠点と国内の部署の窓口として、双方のコミュニケーションを支える仕事をしています。また2カ月に1回English Hour(英語で会話などをするイベント)を担当しています。現在、各部署から30名以上の社員が集まり、英語での楽しいコミュニケーションを行っています。



English Hour

株式会社サトウ グローバルマーケティング部  
製品販促・企画開発グループ  
Robert Khoo



### 障がい者雇用(手話講習会の実施)

目黒、八王子、奈良の各拠点では、手話講習会を開催しています。聴覚障がいを持つ社員が中心となり、昼休みや朝礼時に講習会やワンポイントレッスンを行っています。講習会には毎回多くの社員が集まり、コミュニケーションの手段としての手話を学んでいます。



目黒本社での手話講習会

# 誰もがいきいきと働くために

サトーグループは収益を伴った成長企業をめざし、「効率よく、メリハリのある働き方」を実践しています。個人の価値観やライフスタイルに応じて、生き生きと働ける環境をつくっています。

## 働きやすい職場づくりのための制度全体像

サトーグループは、さまざまな制度を制定し、誰もが生き生きと働ける職場環境づくりに取り組んでいます。

- ノー残業デー
- 有給休暇の取得促進
- 仕事と家庭の両立支援
- 出産祝い金200,000円
- 父親休暇(5日)
- 子どもが小学校6年生修了まで最長2時間の育児短時間勤務
- 最長2時間の介護短時間勤務(介護休業とあわせて93日まで)
- 有給看護休暇(年10日まで)
- 満1歳から満3歳まで、育児休業中の社員に「育児休業延長給付金」として標準報酬月額50%を支給
- 病児保育支援制度
- 母子家庭の母親の就業支援
- 次世代育成支援対策推進法にもとづき、くるみんマークを取得(2007年、2009年に続き、2012年は3回目)
- 早期復職支援

## 社員の心身の健康維持

煙草を吸わない人への感謝手当として1998年から非喫煙手当(月2,000円)を支給しています。社員の健康維持とワークライフバランスのため残業ゼロ運動も展開しています。年1回関東地区と東北地区でそれぞれ家族とともに楽しめる運動会を実施しています。また、社内・社外に相談窓口を設けており、社員の心の健康への配慮もされています。



関東地区の社員運動会

## 育児支援

働く男女の子育てを支援する仕組みづくりを進め、次世代法に基づく「行動計画」に掲げた目標を達成したことで、2007年5月、2009年7月、2012年7月に「くるみん(次世代認定)マーク」を取得しました。



VOICE

### 父親休暇を取得しました

初めての出産は帝王切開による男女の双子でした。自然分娩より産後回復が遅い帝王切開や双子の育児となったため、父親休暇を取得し、妻をサポートしました。産後間もない時期に慣れない育児を2人で一緒にできたので、育児の悩みを相談し合え、不安が解消でき、妻から非常に感謝されました。また上司・同僚の理解もあり、グループ内に休暇を取りやすい雰囲気があるのも良かったです。



サトーホールディングス株式会社  
人財開発室 グローバルグループ 長屋 貴久

## ボランティア休職制度

「ボランティア休職制度」を利用し、JICA(国際協力機構)が実施する「青年海外協力隊」の一員として社員がエチオピアに派遣されました。「ボランティア休職制度」第3期生として2011年1月から2年間現地で活躍しました。



エチオピアでの手洗い指導

VOICE

### 青年海外協力隊でエチオピアに派遣

首都アジスアベバから南西に330キロほど離れたワライタ県の水資源事務所で村落開発普及員として活動しました。日本人が1人という環境でしたが、同僚にも恵まれ、有意義な2年間を過ごすことができました。現地では給水施設の維持管理や学校での衛生啓発に当たりました。現地で培った経験を活かし、これからは会社での業務を通じて社会に貢献していきたいと思っています。



株式会社サトー グローバル業務部  
海外管理グループ 大庭 晴香

## 数字で見る社員(年度)

	2010年	2011年	2012年
平均勤続年数	12.9年	13.2年	13.7年
年間離職率	3.2%	3.9%	4.0%
短時間勤務利用者	20名	33名	34名
年次有給休暇取得率	41.4%	49.3%	64.7%
産前・産後休暇取得者	13名	11名	10名
育児休業取得者	男:0名 女:16名	男:1名 女:10名	男:0名 女:10名
介護休業取得者	0名	0名	0名
障がい者雇用率	1.69%	1.74%	2.17%
外国籍社員数	32名	39名	37名
女性の役職者数(課長職以上)	26名	26名	26名
労災発生件数	8件	3件	2件
度数率	0.88	0.86	0.58
強度率	0	0	0.001
行政指導件数	0	0	0
非喫煙率	65.7%	67.8%	68.5%

・年間離職率=年度内退職数÷(年度末在籍数+年度内退職数)  
 ・産前・産後休暇、育児休業取得者数はそれぞれ取得開始年度に計上。  
 ・短時間勤務利用者は各年度の利用者数を計上。  
 ・度数率とは、100万延実労働時間当たりの労働災害による死者数で、災害発生頻度を表す。  
 ・強度率とは、1,000延実労働時間当たりの労働損失日数で、災害の重さの程度を表す。  
 (注)上記数字はすべて、2013年3月末現在、国内サトーグループ在籍の社員、契約社員、嘱託社員合計の数字です。

## 編集後記

創業者佐藤陽が必死の思いで開発したハンドラベラーという商品が50周年を迎えました。時代は変わりましたが、社会に貢献したいという社員の熱い思いは変わりません。これからもサトーグループはステークホルダーの皆さまにご満足いただけるよう、全力で本業による社会貢献に取り組んでまいります。



## Top Message

サトーグループは今年創業73周年を迎えます。この間、主力事業は大きく変わりましたが、「企業は社会の公器」との信念の通り、本業で社会に貢献する経営を貫いてまいりました。

社会貢献の具体的な形は時代の要請に適應すべきものと思います。その一方で「より豊かで持続可能な世界社会の発展に貢献すること」はわたしたちが未来永劫に希求し続ける使命であり、経営トップが交替しても決して変わることがないサトーグループの企業理念です。

このぶれない軸を未来に向けて守り続けるための鍵がサトー独自のコーポレートガバナンスにあります。サトーグループでは経営を行う執行役員グループを、社外取締役および執行役員を兼務しない取締役が過半数を占める取締役会が監視します。さらに取締役会の議長は輪番制とし固定化せず、代表取締役社長も一票の議決権以上の権限を持ちません。つまり必要があれば「いつでも経営トップを解任できる」実質的なパワーを持った、極めて独立性・透明性の高い取締役会になっているのです。

社会や株主の視点を踏まえた良識ある監視機能と、本業による社会貢献を使命とする企業理念という両輪によって、サトーグループはこれからも社会の公器であり続けます。



サトーホールディングス株式会社  
代表取締役  
執行役員社長 兼 CEO  
松山 一雄

## お問い合わせ先

サトーホールディングス株式会社 広報室

〒153-0064 東京都目黒区下目黒1丁目7番1号

TEL:03-6665-0637 FAX:03-5487-8544

e-mail:csr-info@pn.sato.co.jp



ミックス  
責任ある木質資源を  
使用した紙  
FSC® C014911



見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォントを  
採用しています。

